

# 早春賦 指導の手引き

吉丸一昌 作詞 / 中田章 作曲

教科書 2・3 上 p.16

- ① 「早春賦」1 番歌詞の、名詞の部分を持って印を付けてみよう。

は る は な の み の か ぜ の さ む さ や - た  
に の う ぐ い す う た は お も え ど - と  
き に あ ら ず - と こ え も た - て ず - と  
き に あ ら ず と こ え - も た - て ず -

春は名のみの 風の寒さや 谷の鶯 歌は思えど  
時にあらずと 声も立てず 時にあらずと 声も立てず

- ② 表現の工夫の仕方の一つとして、歌詞を品詞（名詞、動詞、助詞など）によって歌い分けることが考えられます。①で印を付けた名詞の部分の発音の仕方について、考えたことを記入してみよう。

はっきりと、そして丁寧に発音する。

- ③ ②で考えたことをもとにして、「早春賦」を歌うときに工夫してみたい点や注意点について、楽譜に書き込んでみよう。

名詞以外の部分は、歌いながら表現の創意工夫を試してみる（創意工夫の余地があると考える）。